地域社会との関わり

クボタグループは、事業を展開する世界各国・各地域の文化・習慣を尊重し、現地コミュニティとの信頼関係構築に努めています。また、企業市民としての責任を果たすための活動に取り組んでいます。

クボタeプロジェクト

「食料・水・環境」分野における社会貢献活動

クボタは、「食料・水・環境」分野における社会貢献活動への取り組みとして、2008年度に「クボタeプロジェクト」をスタートさせました。

「美しい地球環境を守りながら、人々の豊かな暮らしを支えていく」ことを皆様との約束として、ステークホルダーの理解と協力を得ながら、持続可能な社会づくりのための社会貢献活動に取り組んでいます。

クボタeプロジェクト
www.kubota.co.jp/sustainability/society/community/

市民活動支援

毎日地球未来賞

「食料・水・環境」分野において国内外で草の根レベルで社会の問題解決に取り組む個人や団体を讃え、顕彰する活動に協賛しています。クボタは、1989年に始まった前身の「毎日国際交流賞」から協賛しており、2011年に「毎日地球未来賞」へ名称変更してからの応募総数は、868件にのぼります。2020年は新型コロナウイルスへの感染防止を考慮し、オンラインによる受賞者活動報告会や選考委員との意見交流会を行いました。

社会課題の解決

耕作放棄地再生支援

全国に広がる耕作放棄地を再生しようとする取り組みを、農業機械での作業応援を通じて支援しています。

耕作放棄地の面積は全国で約40万ヘクタール*
* 農林水産省データ（2015年時点）

棚田保全活動

農業をより理解することで、お客様目線のモノづくりができるようになることを目的に、「石畑の棚田」（農林水産省が認定する「日本の棚田百選」に選ばれる棚田。所在地は栃木県茂木町。）の棚田オーナー活動に参加しています。

* 2020年は新型コロナウイルスの影響により、開催は中止となりました。

障がい者雇用と遊休農地活用を目的とした水耕栽培事業の展開 ～クボタサンベジファーム(株)～

2010年2月にクボタグループの特例子会社として設立された会社。

今日、農業は安心で安全な良質の食料を供給することに加え、農村の自然環境を保全するという、きわめて重要な社会的役割を担っています。そうした中、大阪府南河内郡にあった遊休農地を活用し、水耕栽培野菜の生産と販売を行っています。この事業を通じて、障がいのある人達の雇用を創出し、障がいのある従業員が、生き生きと働くことができる職場環境づくりに努めています。

現在は16名の障がい者を雇用しています。

クボタサンベジファーム
www.kubota-works.co.jp/

紹介ムービー
www.kubota-works.co.jp/

森林保全活動

クボタの森

東京都の森林保全活動に協賛を始め、東京都水道局が管理する水源林の一区画2.89haの敷地を「クボタの森」と命名しました。

2017年からは、新入社員が“地ごしらえ”や“草刈り”、“植樹”などを行っています。

* 2020年は新型コロナウイルスの影響により、開催は中止となりました。

次世代教育

クボタ・アクティブ・ラボ

若い世代に科学・技術分野に興味を持ってもらう機会を提供しようと、教育分野での社会貢献に取り組んでいます。1985年から協賛を続けており、延べ2,200名近くの子どもが参加しています。

(写真中央)元ラグビー日本代表で(株)HiRAKU代表取締役の廣瀬俊朗さん
(写真右)慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科教授の神武直彦さん

2020年は「テクノロジーが変えるスポーツの未来」をテーマに、持続可能な社会実現のためにスポーツテクノロジーが果たす役割について、元ラグビー日本代表で(株)HiRAKU代表取締役の廣瀬俊朗さんと、慶應義塾大学の神武直彦さんにご講演いただきました。

神武直彦さんからはスポーツで使われているテクノロジーについて、廣瀬俊朗さんからは自身の経験をもとにしたスポーツテックとリーダーシップについてお話頂きました。当日は新型コロナウイルスへの感染防止を考慮しオンラインでの開催となりましたが、中高生約170名が参加し、質疑応答による交流を図りました。

クボタ地球小屋(てらこや)

子どもたちが自然の恵みの豊かさや地球環境の大切さについて学び、考えるサマーキャンプに協賛しています。2007年から始まり、延べ268名の子どもが参加しています。

2020年は新型コロナウイルスの影響により開催中止となりましたが、新たな試みとして、過去に参加した“地球小屋キッズ”に向けた「YELLプロジェクト」を実施しました。様々な困難と向き合うことの多い今だからこそ、互いにエールを送り合い、ともに前向きに進んでほしいとの思いから、地球小屋キッズからの写真やメッセージが集う特設ウェブサイトをオープンさせました。

クボタ地球小屋『YELLプロジェクト』
begoodcafe.com/project_report/yellproject/

出前授業

小中高生を対象として、農業機械や水の浄化の仕組みなど、「食料・水・環境」に関わることを学ぶ機会を提供し、2020年は588名の参加でした。

クボタ元氣農業体験教室

田植えや稲刈り、収穫物の試食など稲作体験を通じて、農業への理解促進や情操教育推進のお手伝いをしています。2020年は北海道クボタではオンラインによる児童向けの農業体験教室を開催しました。

地域交流

クボタeデー

地域の環境美化・清掃活動として、従業員参加型のボランティアを実施しています。全社で取り組み始めた2008年以降、延べ約8,000名が参加しています。

* 2020年は新型コロナウイルスの影響により、開催は中止となりました。

ジャパンカップ・サイクルロードレース

宇都宮市で毎年開催される「ジャパンカップ・サイクルロードレース」において、栃木県にあるグループ3社（クボタ宇都宮工場、（株）クボタケミックス栃木工場、クボタ空調（株）栃木工場）の従業員が、レース中の立哨ならびにレース後の清掃活動に協力しています。

* 2020年は新型コロナウイルスの影響により、オンラインでの開催となりました。

企業スポーツを通じた社会貢献活動

ラグビーチーム「クボタスピアーズ」を運営し、
ラグビーの普及とラグビーを通じたSDGsの推進に貢献しています。

クボタは、日本ラグビーの最高峰リーグであるジャパンラグビートップリーグに所属し、千葉県船橋市を本拠地とするラグビーチーム「クボタスピアーズ」を運営しています。2017年には船橋市とのホームタウン協定、2020年には東京都江戸川区と千葉県成田市で連携協定を締結し、近隣地域へのラグビーを通じた社会貢献活動に取り組んでいます。チームビジョンとして「Proud Billboard（誇りの広告塔）」を掲げ、強く、愛されるチームを目指し、ラグビー体験会やラグビー指導を通じた普及活動、地域の課題解決に向けた活動、そしてSDGsの推進に取り組んでいます。 また、新型コロナウイルスの影響で公式戦やイベントが開催できない状況でも、感染予防を行った上でのイベントの実施や、オンラインによるファンとの交流を行いました。

教育委員会と連携した近隣の小学校への訪問授業
（タグラグビーの指導）

中学生や女子選手のラグビー指導を行うラグビーアカデミー

特別支援学校へのラグビー教室

2020年8月にはユニセフが掲げるスポーツ指針「子どもの権利とスポーツの原則」にラグビー関係団体では初の賛同を表明しました

復興支援を兼ねた釜石鵜住居スタジアムでのメモリアルマッチ

オンラインイベントによるファンとの交流

ラグビーチーム「クボタスピアーズ公式サイト」
www.kubota-spears.com/

FOCUS

各地の“たんぼラグビー”に参加

クボタスピアーズは「たんぼラグビー」創設以来、ラグビーの普及と地方活性化のため、全国各地で開催される大会に参加しています。

「たんぼラグビー」は2015年に京都府福知山市での開催をきっかけに、全国各地で行われるようになった、田植え前の4～6月の期間に田んぼでラグビーをするイベントです。

【2019年参加実績】

4月21日（日） たんぼラグビーinうきは（福岡県うきは市）
5月11日（土） たんぼラグビーin美馬（徳島県美馬市）
5月19日（日） たんぼラグビーin京都・福知山（京都府福知山市）
6月 1日（土） 手賀沼たんぼラグビー（千葉県柏市）
6月 9日（日） たんぼラグビーin総社（岡山県総社市）

* 2020年は新型コロナウイルスの影響により、開催は中止となりました。

ラグビーチーム「クボタスピアーズ公式サイト」
www.kubota-spears.com/

クボタバレーボール部が2020年よりVリーグに加入し、「クボタスピアーズ」として発足

FOCUS

大阪狭山市のバレーボール教室に参加

クボタバレーボール部（2020年よりクボタスピアーズとしてVリーグに加入）は、大阪府の「おおさか元気広場*」に参画しており、大阪狭山市からの要請を受け、9月6日（日）に大阪狭山市立東小学校で開催されたバレーボール教室に出前授業として参加しました。同市職員の方のサポートのもと、新型コロナウイルス感染症対策をしっかり取ったうえで、低学年から高学年まで30名の小学生にバレーボール指導を行いました。

今後も、地元大阪を中心にバレーボール教室等の地域貢献活動にも積極的に取り組むなど、皆様に愛されるチームをめざして地域社会との共生を図っていきます。

* 大阪府が実施している小学生向けの取り組みで、放課後や週末などに、地域のボランティアの参画・協力を得て体験や学習活動を通して、子どもの豊かな成長を育む教育コミュニティづくりを推進するもの。

バレーボールーチーム「クボタスピアーズ公式サイト」
www.kubota-spears.com/volleyball/

海外での社会貢献活動

アウトリーチプログラムを実施

Kubota Philippines,Inc.（フィリピン）では、2016年に孤児院での交流会をはじめとした地域社会へのアウトリーチプログラムを開始。ほかにも、食料不足が深刻なフィリピンの先住民族アエタ族に農業支援のため耕うん機を寄贈したり、彼らとの交流を深めるため食事会を開催しました。

農業高専へトラクタを寄付

Kubota Farm Machinery Europe S.A.S（フランス）は、トラクタに搭載された最新のテクノロジーを若い技術者に勉強してもらう機会を提供するため、2017年から近隣の農業高専へM7トラクタを寄付しています。寄付をした高専とは、インターンシップ生を受け入れるなど継続して関係を築いています。

若い就農世代のサポート

SIAM KUBOTA Corporation Co., Ltd.（タイ）は若い世代の農業教育をサポートし、前向きな姿勢になってもらうことで農業を始める動機を提供したり、農家への技術提供などを行っています。

農村発展のプログラムに協力

Kubota Agricultural Machinery India Pvt. Ltd.（インド）では、地元のロータリークラブとタイアップして、生活用水の井戸の再生、飲料用の浄水設備の設置を実施しています。

井戸建設支援

安全な水にアクセスできない人を少しでも減らすべく、アジア地域で長年にわたり活動しているNGOを通じて現地への支援を進めています。2018年までに6基の井戸が完成しました。

地域のボランティア活動に参画

Kubota Tractor Corporation（米国）では、地域のボランティア団体と協働で、植樹や湖の清掃など、さまざまな活動に取り組んでいます。本活動はこれまで約50人の従業員が参加しており、2020年には当団体にクボタ製のユーティリティビークルの寄付を行い、清掃活動での移動やゴミの運搬などで利用されています。

小学生向けの環境教育

P.T. Kubota Indonesia（インドネシア）では、地元の小学校にLEDランプを寄付するなどの活動を通した環境教育を実施しています。

【LEDランプ寄付実績】

2016年	2017年	2018年	2019年	2020年
500個	420個	225個	140個	82個

小学生向け絵画コンクールを開催

Kubota Farm Machinery Europe S.A.S（フランス）は、近隣小学校の生徒を対象に「農業」をテーマにした絵画コンクールを開催しています。

応募作品は工場内に展示され、従業員による投票が行われ、入賞者には小学校の修了式の際に、表彰状と賞品が贈られます。

エンジェルツリープロジェクトへ参加

アメリカのKubota Engine America Corporationと、Kubota Tractor Corporationは、恵まれない子どもたちや高齢者が笑顔でクリスマスを迎えられるよう、クリスマスプレゼントを届けるこの活動に賛同し、毎年参加し支援を継続しています。

地元スポーツクラブのスポンサー

Kubota Farm Machinery Europe S.A.Sは、柔道クラブに畳や大会遠征費用を寄付、サッカークラブへは大会トロフィーやチャリティー基金の寄付を行うなど、地元のスポーツクラブへの支援活動を行っています。

その他の社会貢献活動についてはこちら
www.kubota.com/sustainability/society/community

新型コロナウイルスに関するクボタグループの社会貢献活動

日本

業務用加湿空気清浄機「ピュアウォッシャー」を自治体や医療機関へ寄贈

クボタグループは、前線で日々奮闘する医療機関や自治体の皆様が安心して働ける環境づくりの支援として、当社が製造販売している業務用加湿空気清浄機「ピュアウォッシャー」の寄贈を進めています。

地元自治体へは「微酸性電解水」を提供

コロナウイルス感染拡大の影響により、消毒用アルコールが不足していた時期には、「ピュアウォッシャー」の機内で生成される「微酸性電解水」を自治体や医師会を通じて地域の医療機関や保育所、高齢者施設、障がい者施設などへ無償提供しました。

「花いっぱいプロジェクト」に賛同し、花卉農家を支援

2020年4月、新型コロナウイルスの影響で行き場を失った花や花卉農家を支援する取り組みとして農林水産省が推進する「花いっぱいプロジェクト」の趣旨に賛同し、生産農家から花を購入し、全国のクボタグループ約80拠点で生花を飾りました。また、11月には大阪市内のイベント「御堂筋天国プロジェクト」に参加し、お花の無料配布やフォトブースを設置しました。

海外

世界各地の拠点で防護具や医療器具を提供

クボタグループは、アメリカ、カナダ、イギリス、ノルウェー、タイ、ミャンマー、インドなど世界の各拠点においても、各地域で必要とされる物資を地元の医療機関や保健機関、研究所、経済活動を再開する中小企業、地域住民などに寄贈しました。（マスクやフェイスシールドなどの個人用防護具、消毒液や非接触式体温計、食品、ノートパソコン、病院内向け無人搬送機（AGV）、フォークリフト、感染者を隔離するための簡易陰圧隔離室など）

フェイスシールド（アメリカ）

病院内向け無人搬送機（タイ）

最先端の人工呼吸器（インド）

その他の社会貢献活動についてはこちら
www.kubota.com/sustainability/society/community

被災地の再生・復興に向けた支援活動

東日本大震災

農業を通じて未来を担う若者たちを応援 ～宮城県の農業高校で稲作実習に協力～

クボタは、東日本大震災復興支援の一環で、これからの東北農業を支えていく若者たちを応援しています。宮城県農業高等学校で「鉄コーティング直播*」での稲作実習をお手伝いしています。最新の栽培技術を学ぶことを通じて、被災地復興と地域農業を支える人材育成に貢献したいという思いで取り組んでいます。

* 鉄コーティング直播：育てた苗を植える従来の方法ではなく、種もみを鉄粉でコーティングし、直接田んぼに播種して育てる栽培技術。

令和2年7月豪雨

被災地に玄米パン3000個を支援

2020年7月、熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で発生した集中豪雨。とりわけ被害が甚大な熊本県人吉市・芦北町に営業所をおく（株）中九州クボタは、被災地の芦北避難所と人吉ボランティアセンターに、中九州クボタグループが製造販売する熊本県産のお米を使用した玄米パン約3,000個を配布しました。

石綿問題への対応

クボタは旧神崎工場周辺住民の方々や従業員に石綿疾病の方が出ている事実を真摯に受け止め、過去に石綿を扱ってきた企業として社会的責任を果たすという観点から、今後とも誠意をもってこの問題に取り組んでいきます。

周辺住民の方々に対しては、個別の因果関係にとらわれることなく、石綿を取り扱ってきた企業の社会的責任から、治療を受けておられる方やご家族の皆様方の生活面でのご苦労、精神的なご苦痛を少しなりとも軽減することができるように、国の「石綿による健康被害の救済に関する法律」とは別に、「旧神崎工場周辺の石綿疾病患者並びにご家族の皆様に対する救済金支払い規程」を制定し、救済金をお支払いしています。

詳細はこちらから
www.kubota.co.jp/related/